カルメル霊性センター（月刊）　　　　　　　１９９９（平成１１）１１月号

９９．１１
霊性センターニュース
１３８号

『イエスの聖テレジア（ロス・アンデス）』(1)
霊性センターカルメル
断想(142)
みことばのひびき
ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(16)
フォコラーレニュースより
詩
キリスト教霊性史の中における聖人たち(6)
諸所の企画
お願い

『イエスの聖テレジア（ロス・アンデス）』
「神は無限の喜びです」

チプリアノ・ボンタッキョ

生れ：　　　　　　１９００．７．13、チリの首都サンチアゴ
カルメル会入会：１９１９．５．７、ロス・アンデスの修道院
修錬期が始まる：１９１９．10．14
修錬期の最中：　１９２０．４．２、（聖金曜日）チフスで倒れる。
誓願宣立：　　　１９２０．４．６：特別のはからいで、修錬期の６カ月目に。
帰天：　　　　　１９２０．４．12：１９才と１１カ月の若さで。
列聖：　　　　　１９９３．３．21　。

この聖女の霊的歩み、またその趣味や活動を彼女の手紙（１６４通残っている）や日記（６つの小さなノートが残っている）で知る事が出来ます。

その趣味には、水泳、テニス、ピクニック、乗馬がありました。特に乗馬が楽しかった様で、休みの日は長い時間、馬に乗って広い野原を駈け回ったりしていました。

高齢者や貧しい子供達を対象に社会的活動に積極的に参加し、また教会で子供のカテケシスや他の教会活動にも協力していました。

これだけ楽しい趣味も多く、様々な活動に忙しい彼女の毎日は楽しいものに思われます。ところが彼女が１５才の時に書きはじめた日記の冒頭に、その時までの自分の霊的歩みを次のように語っています。「私の霊魂の今までの歩みを二つの言葉で表す事が出来ます。それは苦しむ事と愛する事です。物事をわきまえるようになってから私は苦しんで来ましたが、主は私に沈黙の内に苦しむ事とその苦しみを主にだけ打ち明ける事を教えて下さいました」。

「主は私を愛して下さったから、私の霊魂を養う為に、御自身がお遭いなさった苦しみを私の為に選んで下さいました」。

度々、病気になったりしていましたし、感受性の強い彼女の苦しみは、それだけ多かった事でしょう。

主は、彼女を愛と喜びをもって苦しみを受け入れるようにお導きになったのです。「私を慕い、私に似る者になりたいなら、愛と喜びをもって私について来なさい」という招きを心の中で強く感じていたと書いています（1915.9.24)。その日記の中に自

分の肉体的、また、精神的な苦しみに何度も触れていますが、その度に喜びが心に満ちていると付け加えています。「昨日、かなり苦しみました。でも心に幸せを感じていました」(1917.7.15)。「この２カ月の苦しみは天国の時でした」(1917.9.13)。「病気で何も食べれない‥‥御自分の十字架を下さる主は何とお優しい方でしょう。私は幸せです‥‥このように私の愛を主に表す事が出来ます。‥‥孤独です。御聖体も頂けないが、主と共に十字架の上に止どまっています」(1917.11.8)。

さて、苦しみの中にありながら心に喜びを感じる事が出来るでしょうか。その喜びはどこから来るものでしょうか。

この喜びは神が与えて下さるものだとロス・アンデスのテレジアは理解している様です。「神は愛であり喜びです。その喜びを私達に与えて下さいます」（手紙 1919.6.12）。「私は幸せです。世界中の最も幸せな者です。神は無限の喜びです」（手紙 1919.5.14)。「イエスは無限の喜びです」（手紙 1919.8.2)。

イエス様は、ついてくる人に御自分の十字架に与からせると同時に、御自分の無限の喜びにも与からせて下さると言う事です。

１９９９．９．１９
（在俗者集会講話）

霊性センターカルメル

１．聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想)(1999年黙想会年間スケジュールのページをごらんください）。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（1999年黙想会年間スケジュールのページをごらんください）。

(3)名古屋教区聖書深読会

1.日本カトリック研究センター

〒466-0834　名古屋市昭和区広路町隼人30　TEL.052-831-5037
FAX.052-831-5317

2.宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002　宇治市木幡御蔵山39-12

日時：１０月２日（土）夕食～３日（日）昼食　(了)

１．２．いずれも

指導：奥村一郎師（カルメル会士）

連絡：小林　厚　〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

＊申込・締切り　実施日２週間前　＊　TEL.052-701-3685

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

指導：奥村一郎師

日時：１０月２７日（水）夕食～２８日（木）昼食

連絡：冨田恵子　〒870-1125　大分市上宗方1803-3　TEL.0975-41-4012

(5)聖書深読箇所（通信）原則として月の第２日曜日

6／13	年間第１１主日	マタ	9：36－10：8	(了)
7／11	年間第１５主日	マタ	１３：１－２３	(了)
9／12	年間第２４主日	マタ	１８：２１－３５	(了)
10／１０	年間第２８主日	マタ	２２：１－１４	(了)
11／１４	年間第３３主日	マタ	２５：１４－３０	

(6)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子　〒163-0201東京都新宿区住友ビル　私書箱２２

［註］「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。参加者は持参下い。定価　1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、３冊以上注文されれば、20%引きになります。

オリエンス宗教研究所

〒156-0043　東京都世田谷区松原２－２８－５　TEJ.03-3322-7601

FAX.03-3325-5322

２．聖書と念祷の集い　№８

星野正道神父　（毎月１回）

・日　時：１２月２５日（土）３：３０～
・場　所：上野毛教会・信徒会館　２６号室
・テキスト：神との親しさ（2）『祈りと対神徳』伊達カルメル会訳，聖母文庫 500円。上野毛教会売店にあります。
・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようとお思いになる方は連絡網に入っていただければと思います.
連絡網に入っていらっしゃらない方は、土曜日の午前９時30分から11時30分の間に修道院の受付に　電話　をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。　TEL.03-3704-2171　カルメル会修道院受付　久岡
・その他、夏休み、冬休み、春休み　などのお知らせはこの霊性センターニュースに掲載いたします。
・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されています。
・また、この集い終了後、５時30分から６時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、
・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。

そして大都会の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

２０００年　カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

黙想会年間スケジュール

１．信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ　星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr.中川享子（ケベックカリタス会）、他

（１）　６月　１日（木）４時から１０日（土）朝食

（２）１０月２０日（金）４時から２９日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

２．奉献生活者のための黙想会

（１）．７月２４日（月）４時から８月２日（水）朝食　　福田正範師

（２）　８月１１日（金）４時から２０日（日）朝食　　山田裕於師

（３）１２月２６日（火）４時から翌年１月４日（木）朝食　福田正範師

３．聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の１６時３０分まで

（１）　４月１５日から１６日　　奥村一郎師

（２）　７月　１日から　２日　　〃

（３）　９月３０日から１０月１日　　〃

（４）１１月２５日から２６日　　〃

（５）１２月１６日から１７日　　星野正道師

２００１年

（６）　１月２７日から２８日　　奥村一郎師

（７）　３月３１日から　４月１日　星野正道師

４．ウェンズデイ・リトリート　　スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」　　（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

（１）　５月１７日（水）１０時から１６時

（２）　６月１４日（水）　　〃

（３）　７月　５日（水）　　〃

（４）１０月１１日（水）　　〃

（５）１１月　１日（水）　　〃

5．ウィークエンド・リトリート　　新井延和師（カルメル会）

（最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。）

（１）　４月２８日（金）２０時から３０日（日）１５時　「復活」

（２）１０月１３日（金）　〃　　１５日（日）　〃「アビラの聖テレジア」

6．特別企画黙想会：いづれも通い可

（１）　５月　９日（火）夕食から１１日（木）昼食　　アロイジオ師

（２）１２月１日（金）夕食から　３日（日）昼食　　チプリアノ師

（３）２００１年１月１６日（火）夕食から１８日（木）昼食　奥村一郎師

7．大祭日のミサにあずかるために：チェックイン　午後３時から

（講話なし）チェックアウト午前１０時まで

（１）復活祭　４月２２日（土）夕食なし～２３日（日）朝食

（２）クリスマス１２月２４日（日）夕食なし～２５日（月）朝食

以上、1．から7．までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093　世田谷区上野毛２－１４－２５

TEL.03-5706-7355　お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX.03-3704-1764

8．青年黙想会（35歳までの男女）　　スタッフ：カルメル会士

（１）　５月１３日（土）１６時から１４日（日）１６時

希望者には５月１２日（金）２０時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

（２）１１月　３日（祭・金）１２時、昼食から　５日（日）１６時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAXで下記まで。

〒158-0093　世田谷区上野毛２－１４－２５カルメル会

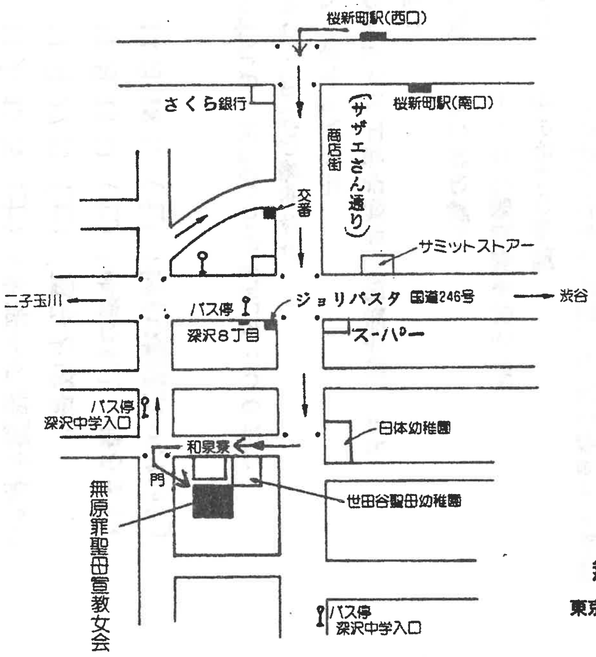
青年黙想会担当神学生　FAX.03-3704-1764

修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO．11

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、と思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

＊日時　１２月１２日（日）１０時から１６時まで、昼食は各自お持ちください。
＊対象　３０才くらいまでの独身男女青年
＊スタッフ　カルメル会司祭　星野正道
＊費用　１０００円
＊内容　主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等
＊持って来るもの　聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等
＊連絡先　158　世田谷区上野毛２の１４の２５　男子カルメル修道会
　星野正道神父　TEL03-3704-2171　申し込みの必要はありません。
＊会場　無原罪聖母宣教女会修道院　158 世田谷区深沢８の１３の１６
　東急新玉川線桜新町下車　TEL03-3701-3295



（地下鉄）桜新町下車
徒歩12分
渋谷より新玉川線
二子玉川園方面

（バス）深沢8丁目下車
徒歩2分
渋谷駅南口
35番のりば
（新道経由）二子玉川園行
高津営業所行
砧本村行

（バス）深沢中学入口下車
徒歩1分
目黒駅より成城学園駅行
又は弦巻営業所行

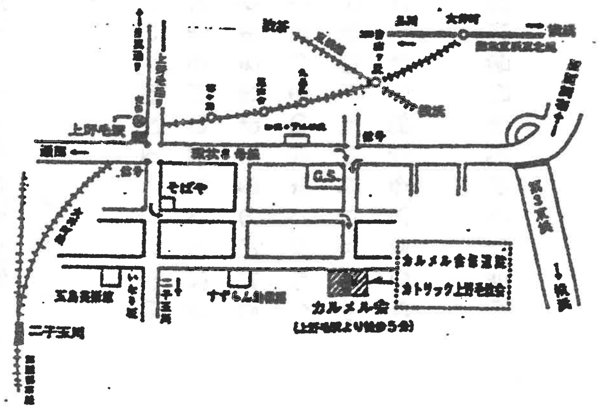
無原罪聖母宣教女会
東京都世田谷区深沢8−13−16
☎3701−3295

T. T. クラブ

～10代・20代の青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、現代の話題を使って、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心に置きます。その中で、お互いの神様から頂いた〝宝〟を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。

ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフは心からおちしております。



第25回　7月10日（土）「教会仲間」
第26回　10月9日（土）「みんなで遊ぼう！（2）」（了）
第27回　10月23日（土）「私たちの居場所」（了）
第28回　11月13日（土）「未来(あす)への希望を抱いて」
第29回　11月27日（土）「恵みと成長」
第30回　12月11日（土）「神様のもとへ帰ろう！」
第31回　12月18日（土）「幼きイエス様を囲んで・バンクエット」

＊時間　いずれもP.M.7:00からP.M.９：００まで
＊対象　10代・20代の青年たち
＊スタッフ　カルメル会士
＊場所　カトリック上野毛教会　信徒会館　１Ｆ
＊プログラム

7:00~7:20	はじめの集い みんなで讃美歌を歌う etc.
7:20~8:20	分ち合いの時間 分ち合いによりお互いの宝を発見する時間
8:30~8:50	祈りの時間 賛美の祈り・沈黙の祈り・祝福
9:00	解散

カルメル修道会
Ｔ．Ｔ．クラブ　係
〒158-0093　世田谷区上野毛２－１４－２５
℡ ０３（３７０４）２１７１

東京カルメル在俗者会黙想会

（１）　５月１３日（木）夕食から　　５月１６日（日）午後集会　　チプリアノ師（了）

（２）　８月　５日（木）夕食から　　８月　８日（日）午後講話　　〃　（了）

（３）　９月２２日（水）午後７時から９月２６日（日）朝食　　渡辺幹夫師　（了）

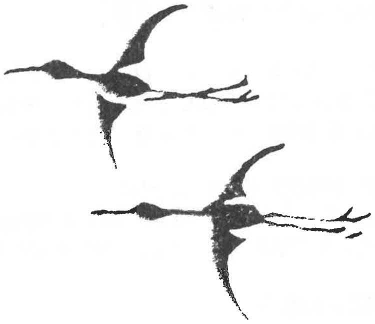
（４）１０月１５日（金）午後７時から１０月１９日（火）午前講話　　星野正道師　（了）

（１０月１７日午前講話、午後集会）

（５）１１月１９日（金）午後７時から１１月２３日（火）朝食　　チプリアノ師

◎空きがある場合にはどなたでもご参加になれます。

◎お問い合わせ、お申し込みは永瀬まで（045-562-2296）



宇治カルメル会　聖テレジア修道院(黙想)

1999年　黙想会案内

聖書深読黙想会(一般対象)

5月29日(土)夕食　～　30日(日)午後 (了)　　大瀬高司神父担当
7月10日(土)夕食　～　11日(日)午後 〃　　奥村一郎神父担当
9月18日(土)夕食　～　19日(日)午後 〃　　中川博道神父担当
11月27日(土)夕食　～　28日(日)午後　　奥村一郎神父担当

青年のための黙想

男性のため　(高校生以上～35歳まで対象)　　カルメル会士

6月12日 (土) 5:00PM　～　13日 (日) 4:00PM (了)
(テーマ)『アメイジンググレイス(驚くべき恵み)　私をさがす父なる神』
11月20日 (土) 5:00PM　～　21日 (日) 4:00PM

女性のため　(高校生以上～35歳まで対象)　　カルメル宣教修道女会シスター　中川博道神父

5月22日 (土) 5:00PM　～　23日 (日) 4:00PM (了)
(テーマ)『アメイジンググレイス(驚くべき恵み)　私をさがす父なる神』
11月13日 (土) 5:00PM　～　14日 (日) 4:00PM

壮年男性のための黙想 (ホットしよう会)　　中川博道神父

6月19日 (土) 5:00PM　～　20日 (日) 4:00PM (了)
10月23日 (土) 5:00PM　～　24日 (日) 4:00PM

半日の黙想 (一般対象)　　中川博道神父

4月22日 (木) 10:00AM　～　4:00PM (了)
7月1日 (木) 10:00AM　～　4:00PM 〃
10月28日 (木) 10:00AM　～　4:00PM

幼いイエスの聖テレーズ黙想 (一般対象)　　伊従信子氏 (ノートルダム・ド・ヴィ)

9月30日 (木) 4:00PM　～　10月1日 (金) 3:00PM (了)

3泊4日の黙想　(一般対象)　　伊従信子氏 (ノートルダム・ド・ヴィ)

(テーマ)『日常生活での神とのかかわり』
7月23日 (金) 5:00PM　～　26日 (月) 昼食 (了)

修道女の黙想

7月27日 (火) 5:00PM　～　8月5日朝食　(了)　　アロイジオ神父
×12月6日 (月) 5:00PM　～　12月15日朝食　中止となりましたのでご了承下さい。　　奥村一郎神父
12月27日 (月) 5:00PM　～　1月5日朝食　　中川博道神父

(申し込み問い合わせ)
宇治カルメル会　聖テレジア修道院(黙想)
TEL 0774－32－7016／Fax 32－7457
〒611-0002　宇治市木幡御蔵山39－12

大祭日のミサに
あずかるための黙想

大祭日であるクリスマスミサにあずかるために、上野毛聖テレジア修道院での黙想をご案内します。

イエス・キリストのご誕生を黙想しながら、心静かに聖夜を過ごしましょう。

１９９９年１２月２４日（金）夕食なし
　～１２月２５日（土）朝食

＊講話はありません。
チエックインは、２４日（金）午後３時から
チエックアウトは、２５日（土）午前１０時
黙想費用　￥３５００

カトリック上野毛教会降誕祭ミサ

★降誕前夜祭ミサ………２４日（金）			
		こどもを中心に	１９：３０
		荘厳ミサ	２２：００
		静かなミサ	２４：００
★降誕祭ミサ　…………２５日（土）			７：００
			１０：００
			１８：００

＊お申込み、お問合わせは

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093東京都世田谷区上野毛２－１４－２５
☎０３－５７０６－７３５５お急ぎの場合０３－３７０４－２１７１
ＦＡＸ０３－３７０４－１７６４

1999年11月

断想（１４２）

宇宙の子守歌　（１）

幸い

奥村　一郎

ちょっとした思いがけないことは、だれでも、どこでもあるのだが、ふとうれしくなって考えをめぐらすようなことがある。おやつの茶菓子ぐらいのものかもしれないが、小さいマッチの頭の火から大きな炎になることもある。

少し前のことだが、東北の盛岡にしばらく滞在していた時のこと。N．H．K．テレビの日曜番組「のど自慢」の時間で、ちょうど終わりの場面になるところ、演歌のタレント、小林幸子さんが、美しい衣装にきれいな声で歌い始めていた。美声とともに流れでるそのときの歌詞に思わず耳を引かれた。あわてて、小さい紙切れにいメモをしたので、少し間違っているかもしれないが、あとでも誰か教えてくだされば幸い。曲もついでに。

さいわいには　　ふたつの　　かたちがある
ねがいごとが　　かなえられたとき
それが　　ひとつのさいわいのかたち
そのつぎは　　ねがいごとなんか　　みんな　　すてっちまえ
それが　　ふたつめの　さいわいのかたち

その時、ふと心に浮かんできたのが偉大な神秘家、十字架の聖ヨハネの言葉：「Nada（無）とTodo（全）」。「みんなすてっちまえ」の「無（Nada）」においてのみ、「全（Todo）」である神と出会う幸いがあると聖者はいう。禅語の「無一物中無尽蔵」もそれにピッタリ。

にしても、偉大な聖者の教えと現代日本の演歌とは、宗教も文化も全く違う、あまりにも縁遠い二人の世界。だが、人の心の奥底にある真理はひとつ。その真理のなかで二つの思いが結ばれても不思議ではない。七夕の美しい夜空に天の川を挟んで、牽牛淑女が愛の契りを交わす場面を思い起こす。人間の真の幸福は、誰にとっても同じ、という素晴らしい現実をそこにも見るかのようであった。まさに、宇宙の子守歌を聞くかのような。

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』１６

イエスは、ご自分を私たちに与えられる

私たちが友達を食事に招くとき、私たちは彼らの身体に食べ物を提供する以上のことをしているのです。すなわち、友情、仲間意識、くつろいだ会話、親密さ、親しさ等を、彼らに提供しているのです。私たちが、「ご自由にどうぞ」とか「もっとどうぞ」とか「遠慮なさらずに」とか「もう一杯いかがですか」などと言うとき、私たちは、自分の食べ物や飲み物ばかりでなく、自分自身をも、招待したお客に提供しているのです。霊的な絆が生まれ、私たちは他者のための食べ物、飲み物となります。

このことは、イエスがエウカリスティアにおいて、ご自分を食べ物、飲み物として、私たちに提供するときに、この上なく完璧に、完全に、生じているのです。ご自分の身体と血を私たちに提供することによって、イエスは私たちにもっとも親密な交わりを切り開くのです。それは、もっとも神聖な交わりです。

（１００１）

善によって悪に打ち勝つこと

使徒パウロは、ローマ人への手紙でこう書いています。

「あなたを迫害するもののために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。…　悪に対して悪を返さず…。決して復讐しようとしてはなりません。あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渇いていたら飲ませなさい。…悪に負けることなく、善をもって悪に打ち勝ちなさい（ロマ１２：１４－２１）。

これらの言葉は、霊的生活の核心を突いています。それらは、霊的生活が命を選ぶことであり、死を選ぶのではないこと、祝福を選ぶことであり、呪いを選ぶのではないことを明らかにしています。しかしながらここで私たちに求められていることは、私たち人間本性の性向に反するのです。私たちが他者になすように求められていることは、まず神が私たちになされたことであることを、私たちが全存在をもって知るときにのみ、私たちは、パウロの言葉にしたがって行動することができるでしょう。

（０９０２）

年間第３２主日（１１月７日）

「油を分けてください。私たちのともしびは消えそうです。」

（マタイ２５：８）

小学生のモハムが祖父にたずねました。「おじいさんはどれくらい勉強したの？」

「わしは数学の学位を取ったんだよ」とおじいさんが答えます。

「それなら僕に頭を貸してよ。もう隠居したんだから頭は使わないでしょ。」

「そりゃできない相談だ。自分で勉強しなくちゃどうしようもない。将来のことは自分で考えなきゃだめだよ。」

孫とおじいさんのこの会話は借りることのできないものがあると警告してくれています。今日の福音のたとえにある愚かな乙女たちは油が必要なときに借りることができないと知りました。人は神との関係を借りることはできません。各人は神との関係を自分で持つように恵みを受けているのです。人は性格を借りることができません。自分で身に着けるしかないのです。間際になっては獲得できないものがあります。試験の日になって、試験準備を始めても遅すぎます。自分が身につけていない腕や人柄を得ようとするのも同じように遅すぎるのです。

今日では台風とか地震とか洪水などのような自然災害がたくさんあることを新聞・テレビで知ります。主が御現れになる日・時がいつであるか私たちは知りません。主をお迎えするよういつも準備しているべきです。

遅すぎると言うのはいつだってみじめなものです。

(Beatrice)

年間３３主日（１１月１４日）

「あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさないところからかき集められる方だと知っていました」　（マタイ２５：２４）

主は「あなた方は自分の量る秤で量り返される」（ルカ６：３８）」と仰っいました。これは人を裁くなと言う文脈の中で言われていることで、人を裁かなかったら神から裁かれないし、人を許せば神からも許されると言う意味なのですが、このことは神に対しても当てはまります。

今日の福音の中で、１タラントン預かった者だけが、主人の金を穴の中に隠しておき、主人の怒りを買って、１タラントンを取り上げられてしまいます。それは主人を蒔かない所から刈り取り、散らさないところからかき集められる恐ろしい人だと思っていたからです。１０タラントンと5タラントンを預かった者たちが商売をして儲けることができたのはたとえ失敗しても主人は許してくれると言う安心感があったからでしょう。神が厳しい方だと思っている人は萎縮して与えられた恵みを生かすことができないのに対して、神が優しい方だと思っている人は恵みを一杯に伸ばすことができます。

ある人が天国には神様博物館というのがあるのだよと言っていました。地上にいる間どういうものを神だと思っていたかがみんなわかってしまう博物館です。ある人は髭を生やした優しいおじいさんが神様だと思っていたかも知れないし、裁判官のような厳めしい顔をした人が神だと思っていたかも知れません。天国に入っていればみんな笑い話ですんでしまうでしょう。しかし自分の持つ神のイメージが神に近づくのを妨げ、御旨に反することをするようになり、その結果天国に入りにくくなるのであれば事態は深刻です。神は許すかたなのです。

（新井）

年間３４主日（１１月２１日）

「私たちは私たちの間の最も小さな人において王であるキリストにいかによく仕えたかによって裁かれるでしょう」（マタイ２５：３１～４６）

神の裁きは知識、名声、財産などでなく、私たちが行なった助けにかかっています。簡単なことにおける助けであるはずです。

暑い夏の正午のことでした。ミィーナは畑に行くところでした。少数部族の６才になる男の子が空腹に泣きながら走ってきました。「おばさん、おばさん、何か食べるものをちょうだい。もう２日も食べてないんだ。」ラジュは骨と皮ばかりでした。ミィーナはかわいそうに思い、２ルピーを渡して「何か食べ物を買っておいで」と言いました。ラジュはこの少しのお金に喜び踊りました。

翌日、ラジュは畑にやってきて、ミィーナに「何か仕事をさせてよ。おばさんのために働くよ。」と頼みました。ミィーナは微笑んで「おまえはまだ小さいのに何ができると言うの」と言いました。しかしラジュはあきらめません。そこでミィーナはラジュに畑の石を拾うように言いました。

ラジュは孤児で、家がなく、木の下で暮らしていました。ラジュはミィーナに、勉強したいけれど学校に行くお金がないんだと言いました。

ミィーナはラジュを家に連れて帰り、自分の２人の子供と同じ学校に入れました。ラジュは賢い少年で、学校を卒業しました。彼は洗礼を受け、名前をポールと変えました。彼はカトリック教育の中で育ち、大学を出ると、神学校に入る決心をしました。ミィーナによって人生が開けたことを主に感謝して彼は人生を人への奉仕に捧げる決心をしたのです。

これはインドで実際にあった話です。

(Beatrice)

待降節第１主日（１１月２８日）

「その時がいつ来るかあなた方には分からない」（マルコ１３：３３）

その時とは世の終わり、終末のことです。その時がいつかは主も御存知でなく、御父だけが知っておられます（１３：３２）。テサロニケ人への第１の手紙を読むと、パウロは当時自分の生きている間にその時が来ると考えていたようです。しかしその後２千年近く経ちましたがまだ世の終わりはやって来ていません。多分、私は世の終わりを見ないでこの世を去ることでしょう。

一方、人生の終わりは確実に訪れてきます。人生の終わりが突然やって来る人もいます。私の姉は、２４才の若さで尿毒症によってあっと言う間に死んでしまいました。錯乱状態で亡くなったそうですから、自分がこれから死ぬのだと言うこともわからなかったかも知れません。「盗人が夜やってくるように、主の日は来る」（Ｉテサロニケ５：２）という御言葉を思い出してしまいます。

こういうことを考えると、人生の終わりが大切なのであって、世の終わりが私の死後来るのだったら、死の翌日に来ようが、１００億年後に来ようが私にはどちらでも同じであると思いたくなってしまいます。あの世ではこの世のような時間はないと言うのですからますますこう考えたくなってしまいます。しかしこの考えは少し自己中心的です。

私たちはこの世を去っても、地上との関係が切れてしまうわけではありません。天国の霊魂はもちろんのこと、煉獄の霊魂でさえ地上にいる人々のために祈ることができます。これは福者ピオ神父が強調したことです。私の死後、神の憐れみによって煉獄に置いていただけるでしょう。そうすると私は一生懸命地上にいる人々のために祈ると思います。主の日とは煉獄で地上の人々のために祈ることもできなくなる終わりの終わりです。そして同時に私たちの待ち望む日です。私たちの希望、主イエズスの来られる日なのです。死後すぐに世の終わりが来るのと１００億年後では大変な違いがあるのです。

やはり主の日が来るのを待ち望みながら、主がいつ来られてもいいように備えておかなければなりません。

（新井）

フォコラーレニュースより

真の愛とは…

（マタイ２２・３９）

隣人を自分と同じように愛しなさい。

このみ言葉は、旧約聖書の中にも見られるものです（注１）。

イエスを試そうとして質問をした人に対し、イエスは、神の掟を探求してきた旧約の預言者たちとユダヤ教の教師たちの教えを用いて、お答えになりました。実際、当時のユダヤの教師、ヒレールは、次のような言葉を残しています。「自分にしてもらいたくないことは、隣人にもしてはならない。これこそ律法を全うする掟である。他のことは、これの説明に過ぎない」と。

ユダヤ教の教師たちは、隣人への愛は、神様への愛から生まれるもの、ととらえていました。神様は人をご自分の似姿に造られたからです。神様から造られたものを愛さずに、神様ご自身を愛することはできないわけです。これは「なぜ隣人を愛するのか」に対する真の答えであり、「律法の中でも、すべての人にあてはまる偉大な教え」とされていました。

イエスはこの教えを強調しながら、次のようにおっしゃいます。「隣人を愛しなさい」という掟は、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛しなさい」という最も重要な第一の掟と同じくらい大切だ、と。こうしてイエスは、二つの掟をしっかりと一つに結ばれ、これはキリスト教の中で変わることなく継承されていきました。使徒ヨハネも、次のように簡潔に記しています。「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません」（注２）と。

隣人を自分と同じように愛しなさい。

さて、福音全体がはっきりと語っているように、「隣人」とは、男性、女性、友人、敵の区別なく、すべての人を指します。私たちはその一人ひとりを尊重し、大切にし、敬う必要があります。隣人への愛は「普遍的」であると同時に「個人的」なものです。この愛は「すべての人」を包み込むものであると同時に、「自分のすぐそばにいる人」に対して、具体的に表されるものだからです。

しかし、これほどの広い心を、私たちに与えてくれるのは、だれでしょうか。自分とは全く関係のない人々をも、「隣人」すなわち「自分に近い人」として感じ、「自分かわいさ」を乗り越えて、相手を自分のように愛することを可能にする慈しみの心を、だれが私たちに下さるのでしょうか。

その愛は、神様からの賜物です。いえ、むしろ、神様の愛そのものと言えるでしょう。「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」（注３）とある通りです。

この愛は、一般的に言われる愛とは異なり、単なる友情や博愛を指すのでもありません。これは、洗礼の時以来私たちの心に注がれている愛で、神様の命、三位一体の命そのものだと言えるものです。私たちは、この愛にあずかって生きることができます。

愛こそ、すべてです。しかし、この愛をよく生きるためには、それがどのような特徴を備えているか、知っておく必要があるでしょう。福音や聖書からその特徴を汲み取ることができ、いくつかの要点にまとめることができます。

第一に、イエスはすべての人のために命を与え、すべての人を愛されました。それによって、真実の愛とはすべての人に向けられるものであることを教えてくださったのです。この愛は、私たちがよく抱くような単に人間的な愛とは異なります。私たちの愛は、家族や友達、近所の人など、一定の人に限られることが多いのですが、イエスが教えてくださった真の愛は、人を分け隔てしないものです。この人は感じがいい、あの人はいやだ、きれいだ、見た目が悪い、大人だ、子供だ、というふうに区別しません。この愛の前では、自国の人、外国の人、自分の教会、他の教会、同じ宗教、違う宗教の人、などという見方はなくなります。皆を愛する愛だからです。私たちもこのように、すべての人を愛してみましょう。

また、真の愛は、自分から先に愛するものです。普通私たちは、自分を愛してくれる人を愛するものですが、この愛は相手から愛されるのを待つことなく、自分の方から一歩を踏み出します。私たちがまだ罪人であった時、つまり、まだ愛することをしていなかった時に、御父は私たちを救うため、御子を送ってくださいました。

ですから「すべての人」を愛し、「自分から先に」愛することです。さらに真の愛は、隣人一人ひとりの中に「イエスを見る」ものです。イエスは最後の審判の時、私たちにおっしゃるでしょう。「あなたはそれを私にしてくれた」（注４）と。私たちが隣人に対して善いことをしても、悪いことをしても、イエスはこうおっしゃるでしょう。

また真の愛は、友を愛するだけでなく、敵をも愛します。敵に善を行い、その人のために祈ります。

そしてイエスは、ご自分が地上にもたらされた愛が、「相互のもの」となるよう望んでおられます。私たちが互いに愛し合い、一致に至るようにです。

以上のような愛の特徴は、今月のいのちの言葉を理解し、それを生きるための助けとなるでしょう。

隣人を自分と同じように愛しなさい。

確かに真の愛は、他の人を自分と同じように愛するものです。これを文字通り生きてみましょう。隣人を自分と同じように考え、自分に対してするであろうことを、相手にもしてあげることです。真の愛は、苦しむ人と共に苦しみ、喜ぶ人と共に喜び、相手の重荷を共に担うことを知っています。それは、聖パウロの言葉を借りれば、愛する相手と自分を一つにすることです。ただ感情的で言葉だけの愛ではなく、具体的な行いを伴う愛です。

他の宗教を持っておられる方も、このように生きることができるのではないでしょうか。「黄金律」と呼ばれる教えは、あらゆる宗教の中に見られ、「自分にしてもらいたいことを、他の人にもしてあげなさい」と教えているからです。ガンジーも、大変シンプルな言葉で分かりやすく、これを説明しています。「私があなたに悪を行うなら、自分自身を傷つけることになる」と。

では今月は、隣人への愛を改めてよく生きるよう努めてみましょう。隣人といっても、実にさまざまな人が含まれます。近所の人、クラスメート、友達、親戚の人などもそうですし、世界中で苦しみにさいなまれている人々も入ります。彼らは、戦争や自然災害の地から、テレビを通じて私たちの家に運ばれてくる「隣人」です。一昔前ならば、自分とは関係のない、遠い国の人たち、と思って終わっていたことでしょう。でも今は、彼らも、私たちの隣人となったのです。私たちに何ができるかは、時に応じて、愛が教えてくれるでしょう。こうして私たちの心は少しずつ、イエスの心の大きさにまで広げられていくでしょう。

キアラ・ルービック

注１　レビ記　１９・１８
注２　ヨハネの手紙　１４・２０

注３　ローマの信徒への手紙　５・５
注４　マタイ　２５・４０

フォコラーレ本部
〒168-0071　東京都杉並区高井戸西１－１１－４
TEL.０３－５３７０－６４２４
FAX.０３－５３７０－３０５５

Ⅵ

蛭田　幼一

一九九七年十月二十五日

あの人が　ほかの女（ひと）とゆくのを見た
いつも　風は　あまく
道は　しずか。
あの人がほかの女とゆくのを見た
このあわれな目よ。

チリの女流詩人、ガブリエラ・ミストラルの詩の断片だ。田村さと子とかいう人が訳していた。生徒に読ませたことがある。ある子が、失恋した詩なのにどうして、「いつも風はあまく／道はしずか」なんですか、と詰問してきたよ、そうきみに話したとき、きみは即座にラブだな、といった。そうだ、この詩にはラブがあるんだ。分かる人には分かる。

（筆者は聖書深読・聖書と祈祷の集い参加者）

ーキリスト教霊性史の中における聖人たち（6）ー

『ヴィアンネ』

カルメル会助祭　松田　浩一　O.C.D

歴史の中の位置づけ

16 世紀に入ると、ルターによる宗教改革が始まり、教会にとって大きな問題となった。そして、ルターに対して破門を宣告するが、カトリック教会は改革の必要をせまられていた。そして、1545 年からトリエント公会議が始まり、中断をしながらも 1563 年に終了することが出来た。カトリック教会はその後、このトリエント公会議で決まったことに基づいて歩んでいくことになる。

フランスのカトリック教会でも 16 世紀に入ってからカルヴァンの宗教改革が始まり、フランスを始めとして周辺諸国に広がりを見せていった。フランスでも内乱が起こり、ユグノー戦争（1562-98）として知られている。この後、ユグノー派というプロテスタントは残るが、フランス全体は、カトリックのまま残り、王家もカトリックのまま残ることになる。

さて、フランスのカトリック教会は、二つの主義が出てくる。一つはガリカニズムであり、もう一つはヤンセニズムである。

ガリカニズムとは、ローマ教皇の中央集権化に反対し、国家教会への干渉を弱め、司教の権利や独立を主張するものである。特にルイ 14 世の政策の中に教会も組み込まれることになったときに、フランスのカトリック教会は「四命題」をもって、教皇の世俗問題に関する権限を否定することになる（1682 年）。また、教皇に対する公会議の優位性を主張し、更に、教皇の単独不可謬性を廃棄した。そして、この宣言を大学や神学校で教えるように命じた。その後、ルイ 14 世は教皇イノケンチウス 11 世の抗議に応じて、1693 年にこの告示を撤回したが、19 世紀に至るまで効力を保ち続けることになる。

ヤンセニズムとは、ルーヴァン大学の教授で、司教でもあったコルネリウス・ヤンセン（1638 年没）によって提唱した神学に基づくものである。ヤンセンは原罪の性質、人間の自由、神の恵みの性質や効力を解説するにあたって、人間性の徹底した腐敗への確信に基づいて、

神学している。すなわち、人間の自由意志を否定するほどに神の恩恵の力を強調し、キリストは救いに予定された一定の人々のためにだけ死んだと述べ、キリスト者以外の人々は何の恩恵も受けず、従って彼らの行為は善が出来ないと主張した。これに対して、教皇イノケンチウス 10 世は 1653 年にヤンセンの教義を 5 命題に要約されたものを処罰した。しかし、ヤンセニズムに傾倒していたポール・ロワイヤル修道院のシスターたちとアントワーヌ・アルノー率いるヤンセンの弟子たちは、五命題が確かに異端であることは認めても、事実と法の間の区別を作り出して、ヤンセンの教えを正確に反映していないと主張し、ヤンセニズムに留まった。この教義と戦ったのが、イエズス会のルイス・モリーナ説である。この説は、原罪についても、ヤンセニズムのような悲観的な見方をせず、人間性の尊さを説いていた。この両者の争いによって、フランス教会にとって大きな問題となっていった。そして、このヤンセニストたちは、最終的に教皇クレメンス 11 世によって処罰され（1705 年）、ポール・ロワイヤル修道院のシスターたちは追い出され、多くのヤンセニストは消えていった。しかし、ヤンセニズム的道徳はフランス教会に残っていくことになる。すなわち、罪と罰の恐怖による道徳観である。

ヤンセニズムと戦ったイエズス会は、フランスにとって大きな支障となってきた。フランスのカトリック教会に繋がっていたヤンセニズムが衰えた原因を教皇庁に繋がっているイエズス会に起因すると考えるようになったからである。このため、イエズス会はフランスで徐々に支持を失っていた。最終的には、マルティニック島との交易に関する問題で、1764 年にフランスにおけるイエズス会の財産没収になり、弾圧を受けることになる。

霊性面では「静寂主義」という異端が広まった。17-18 世紀は精神的に荒廃の時期であり、このような時期に異端が出てきたのである。これは霊の導きを説き、道徳上の罪は問題にしないものであった。しかし、これは教会によって裁かれることになる。

1789 年には、フランスにおいて大きな革命があった。このことは教会に大きなダメージを与えていった。この革命が始まる前、「啓蒙主義」という思想が、イギリスからフランスに入ってきていた。すべてを理性で捉える啓蒙主義は、神さえも理性に閉じ込めるようになる。ヴォルテール（1694-1778）などが、この思想をもってフランスに広め、教会にも戦いを挑むことになる。また、フリーメーソンもその一端を担っ

ていた。この啓蒙主義が社会改革に寄与していくことになる。1789 年 7 月にフランス革命が行われ、これによりフランスの旧体制は崩壊することになる。ここに掲げるのが「自由と平等と兄弟愛」という宣言である。カトリック教会も解体される。1790 年には慈善事業をしない修道会は解散され、全教会財産の没収と国有化に関する法が発布される。また、フランス聖職者民事基本法が発布され、ローマから分離されてフランス国家に組み込まれる教会となっていった。そして、すべての聖職者にこの基本法への宣誓が要求されることになる。全聖職者の三分の二が拒否したが、その後、1792 年から 1975 年まで虐殺などによる恐怖政治が続く。1793 年には国王ルイ 16 世、マリー・アントワネットが処刑される。1975 年から 1979 年においては、聖職者への扱いが徐々に寛容化されたが、迫害は続いていた。この迫害に終止符を打つのが、1799 年に立ち上がったナポレオン・ボナパルトである。1801 年、教皇ピオ 7 世と政教条約を結び、カトリックの信仰を擁護することになるが、教会は財産を放棄し、司教の任命は皇帝、叙階権は教皇に委任するなど、教会活動にとって制約の多いものであった。その後、フランスのカトリック教会は、政変を何回か経験することになるが、このことにより教会の国家からの自由を訴えるようになっていく。

さて、ヴィアンネはフランス革命の直後に人生の大半を生きた人である。彼はこの時期のフランスのカトリック教会の主任司祭として生きていき、フランス人たちにカトリック信仰を及ぼした人である。このヴィアンネの生涯と思想をみてみることにする。

ヴィアンネの生涯と思想

ジャン・マリー・ヴィアンネは 1786 年に、フランスのリヨンの北西ダルディリ村で生まれた。一家は代々この地に住む信心深い中流自作農家である。特に彼は小さい頃、母親から信仰の手ほどきを受けて育った。

彼が 5 歳のとき、フランス革命が起こり、フランス国内のカトリック信仰に熱心な聖職者たちは迫害を受け命を落としていったが、迫害を受けている聖職者たちをヴィアンネ一家もかくまった。10 年後にナポレオンによって迫害がなくなるが、多くの村落では司祭が不足して、宗教的な荒廃が著しかった。その光景をみていたヴィアンネは司祭の召命を感じていた。そして、17 歳になり、司祭になるために行動を起

こしたが、いろいろな障害があって、司祭志願として勉強を始めたのが 19 歳のときであった。そのとき、エキュリー町にシャルル・バレー神父が主任司祭として赴任してきたことで、彼のもとで司祭になるための勉強を始めた。しかし、彼の勉強能力は、この数年の革命の嵐などによって勉強できなかった理由などにより、錆付いていたのである。特にラテン語が絶望的であった。しかし、彼は努力するが、時々、司祭になるのをあきらめることもあった。その後、ヴェリエールやリヨンで哲学、神学を学ぶが、試験のたびごとに出来が悪いことが問題になり、ラテン語ができなくて神学校から追い出されることになる。主任司祭のバレー神父のもとに帰るが、落胆しているヴィアンネを励ましながら、ヴィアンネの勉強を見ることになり、再びリヨンの大神学校で試験を受けた。しかし、合格を決するのは大司教の任であり、大司教の不在ということもあって、総代理のクルボン神父に任せられた。クルボン神父は、ヴィアンネの信心深さのみで合格にしたのである。その後もバレー神父のもとで勉強を続け、ヴィアンネが 29 歳のときに司祭となった。ただ、当分の間、告白を聞く権能は与えられなかった。

叙階後、ヴィアンネはバレー神父のもとで助任司祭として 3 年間働いた。この 3 年目にして、主任司祭バレー神父が亡くなることになる。これを期にして、ヴィアンネはアルス村の主任司祭として赴任するのである。このアルス村で、ヴィアンネは神様の力を発揮するのである。

ここで行った彼の事業は、革命のときに荒廃したアルス村の村民の信仰を呼び覚ますことと信心会を造ったこと、身寄りのない少年少女を保護する「摂理の家」を建てたことと要理教育を始めたことである。彼の生活は質素な生活であったが、こと聖堂、ミサ、そして信仰に関わることについては豪華にした。また、説教のためには、6・7 時間もかけて勉強をしていたようである。勉強は不得意であったが、そのために勉強は熱心にした。また、彼は当時のカトリックで伝統的な苦行もしていたようである。

このような生活の中で、彼の聖性が周囲に広まっていき、大勢の人がアルス村に来るようになった。その人々に対して行った使徒職は、告白を聞くことと、病人の治癒、人々の指導などである。このように使徒職が多くなると睡眠時間も少なくなり、休む暇もなくなる。この中で、彼の力の回復は、ミサ聖祭と聖務日祷であった。この時に唯一主の身下で憩うことが出来た。また、彼は多忙の中でも自己の制御を失うことがなかった。それは不断の祈祷を身につけていたからである。

彼が人々と会っているときには、主への祈りのうちに主と共に人々に働いていたといえる。特に主の受難と一致をしていたようである。告白を聞くとき、助言を与えるとき、必ず十字架のイエスと共に人々に働きかけていたといえる。このような生活を 30 年間続けた。この間に彼は 3 回も逃走を企てた。孤独を願って。しかし、アルスに帰るのであった。この 30 年の間に助任司祭レーモン神父との生活の困難さ、ラ・サレットの聖母の出現に対する疑問を残しながら 1859 年にアルス村で永遠の休息に入る。73 歳であった。

彼が行った注目すべきことは、主任司祭として人々の救済のために働いたことであろう。彼の働きの表われは、公教要理の教え、主日の説教、告白を聞く使徒職、貧者の救済、信心の普及などである。しかし、このような働きをどこから得ていたのであろうか。それは父と子と聖霊の神の生命の参加により、神との生活に言及していったのである。彼は神学の勉強の出来はそれほど良くなかった。しかし、神との生活には長けていたのである。そのため、ヴィアンネは神的光に照らされた知性の徳を身に付けていた。だが、人一倍に勉強をしたのも確かである。

説教などに出てくるヤンセニズム的な言葉、地獄について多く語っているが、彼がこの言葉を用いたのは、18 世紀の説教集から借りた言葉を用いていたからである。彼は説教を知らなかった。そのため、18 世紀の説教集の言葉を使用したのである。しかしヴィアンネの捉える父なる神は善の神であり、美の神であり、愛の神である。地獄の説教は、特に神の愛と救済を際立たせるために使用した。罪は彼にとって、無限である御父の善性についての信頼を唯一の基準としていて、神に戻る機会としていた。ヤンセニズムについてはヴィアンネも嫌悪した。実際、1827 年にヤンセニストが大半であったファラン教区を受け入れなかったことからも分かる[注1]。

しかし、当時のフランスの習慣に対する教会の道徳は、ヴィアンネにおいても厳格なものであった。ダンスの禁止、居酒屋への出入りへの忠告などがある。修徳においても苦業の導入などがある。しかし、彼の生活は御子の生き方に合わせていた。特に十字架に。そのために、ヴィアンネの勧告は、多くの人に回心をもたらした。告白を聞く使徒として名声を博したのも、彼の勧告が的を得たものであったからであった。ここにも罪に対する神の大きな憐れみを司祭として同調していたからであろう。

身寄りのない少年少女の救済のための「摂理の家」の設立は、子供たちが世の中の波に飲み込まれることを憂慮して行ったことであり、貧しい人への彼の配慮が伺われる。これも神父の父性を父なる神の父性に合わせて行った結果であった。この「摂理の家」では食料に困ったときに、真剣に子供たちと祈ることにより、倉の食料が増えていたという奇蹟さえも起こした。

信心については、無用な信心を排斥したが、教会の勧める信心は積極的に進めた。特に三つの信心を奨励していた。主の御受難と聖体に対する信心、聖母に対する信心、煉獄にいる人たちへの信心である。聖体への信心は、後に聖体への絶え間のない礼拝の信心会と発展し、「永久聖体礼拝の聖クララ修道会」という観想会になっていった。聖母の信心は、近くのラ・サレットの聖母の出現を排斥したが、しかし、このことは彼の心の奥にしこりとなって残っているくらい聖母への崇敬は大きかった。

このように、ヴィアンネは父と子と聖霊の交わりに絶え間のない参加を通して、主任司祭として、その父性を表していったのである。

現代へのアプローチ

以上、簡単にジャン・マリー・ヴィアンネの生涯と思想をみてみた。限られた資料からみたので、それほど読み取っていないかもしれない。しかし、この中から現代への適応をみてみることにする。

まず第一に、主任司祭ヴィアンネの中に深い霊性があること見出すことが出来る。ヴィアンネの生活からやはり神との生活を証する霊性が読み取れるからである。そして、司祭としての父性を表したのである。父性の愛は、キリストにおいての牧者の愛と同じものである。父なる神の羊を同じ愛で牧するからである。「教会の頭であり牧者であるキリストの似姿と牧者としての愛」[注2]を表す司祭のあり方は、ヴィアンネの生活にも表われていた。彼がアルス村の主任司祭を 45 年間続けられたのも、この愛があったからにほかならなかったからである。ヴィアンネの場合は司祭として神様の父性を表していったが、家庭でも父親の父性は、神様の父性に根差したものであるはずである。子供にとって最後まで父親であり続けるし、そのためにもやはり神様との絶え間のない生活が必要ではないかと思われる。

もう一つは公教要理の大切さが挙げられる。公教要理による教育は

プロテスタントがいち早く行ったことであるが、カトリック教会も公教要理による教育をトリエント公会議以降始まった。フランスではフランソワ・ド・サル（1567-1622）による『信心生活入門』などにみる民衆の信仰生活の強化がみられるが、ヴィアンネも同じように農民に公教要理を教えたのである。教会の教えである公教要理の教えは教会の大きな務めである。キリストの教えを信じる者に教えるからである。キリストの教えが生活に染み込むことによって、深い神との交わりに導き入れることができる。しかし、知識のみの公教要理でなく、生活に生かす公教要理でなければならないであろう。

もう一つは、回心と告白することの大切さを見せてくれる。ヴィアンネの下に多くの巡礼者が来たのは、彼に回心の告白をすることによって新しい生き方を示してくれるからである。罪によって盲目なったならば、神の道を見出すことが出来ない。盲目が癒されることによって、また神の道を見出すことができ、新たにキリストと共に歩むことができるというのである。ヴィアンネはこの罪を認識させ回心するために、力を注いだ人である。ヴィアンネの意志を汲むならば、回心と告白は大切であるといえよう。

もう一つは最後までやり遂げる堅忍の大切さと与えられた仕事への堅実さであろう。彼はアルス村で45年間司牧に力を注いだ方である。3回ほど逃亡を企てたが、最後まで司牧を遂行した。ここまで出来たのも神様の恵みと、周りの人々の心遣いであった。死ぬまで任務を遂行することは、司祭のみでなく、修道者、夫婦、父親、母親もそうである。長くて短い人生の中で紆余曲折があるが、ヴィアンネの姿は私たちに任務の遂行において希望を注いでくれる。このヴィアンネの源泉は、十字架上のイエスとの同化であった。神の恵みによってではあったが、イエスの十字架が大きな支えであることは多くの聖人の生涯をみても分かることである。

フランスの聖なる司祭ヴィアンネについて扱ったが、司祭の姿を少しは垣間見たように思う。教会にとって司祭は尊い職務であるが、また多くの困難にも遭う。多くの司祭方のためにも祈りたいものである。

注１，『アルスの司祭』（ベルナール・ブロ，ミシェル・カルージュ著，伊能　哲大　　　　訳，エンデルレ，１９９１）のｐ１６参照

注２，『現代の司祭養成』（ヨハネ・パウロ２世著，東京カトリック神学院　訳，中央協議会，１９９５）のNO.２３参照

＜参考文献＞

トマス・ボーケンコッタ，『新世界・カトリック・教会史』，石井　健吾　訳，エンデルレ，１９９２

L.J.ロジエ他，『キリスト教史・第6巻・バロック時代のキリスト教』，上智大学中世思想研究所，１９８１

L.J.ロジエ他，『キリスト教史・第7巻・啓蒙と革命の時代』，上智大学中世思想研究所，１９８１

L.J.ロジエ他，『キリスト教史・第8巻・ロマン主義時代のキリスト教』，上智大学中世思想研究所，１９８１

アウグスト・フランツェン，『教会史提要』，中村友太郎訳，エンデルレ，１９９２

J. ルクレール，F. ヴァンダンブルーク，『キリスト教神秘思想史　中世の霊性』，上智大学中世研究所　編，平凡社，１９９７

ルイ・コニェ，『キリスト教神秘思想史　近代の霊性』，上智大学中世研究所　編，
平凡社，１９９８

戸塚　文卿，『聖ヴィアンネー』，中央出版社，１９６３

アルフレッド・モンナン，『聖ヴィアンネーの精神』，久保　守　訳，中央出版社，１９６４

ベルナール・ブロ，ミシェル・カルージュ，『アルスの司祭』，伊能　哲大　訳，エンデルレ，１９９１

ヨハネ・パウロ２世，『現代の司祭養成』，東京カトリック神学院　訳，中央協議会，１９９５

諸所の企画についてのご紹介

Ⅰ　ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）
場　所：〒177-0044　東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

キリスト者の生活を深める祈りの集い　＊いのちの泉へ：聖人たちと共に祈る
１９９９．＊変更　　１１／１３（土）「愛の炎」十字架の聖ヨハネと共に
　　　　　　　　　　１２／１８（土）「御手の中で」幼子イエスと共に
講　師：伊従　信子（ノートルダム・ド・ヴィ　会員）
プログラム：午後２時～午後５時半。＋ミサ（日曜ミサ）講話、祈り、お茶＆質問
申し込み：電話(18:00-21:30) 又はFax(03)3594-2254。はがきで　＊参加費:200円

Ⅱ　スズラン・ハウス
女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。
詳細を知りたい方は、下記へ：
〒192-0041八王子市中野上町4-27-4　TEL 0426-28-3222　　井口　貴志

Ⅲ　風　の　家
指　導：井上　洋治　師（東京教区司祭）
〒169-0042　東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453
山根　道公　　機関誌『風（プネウマ）』編集者
〒169-0042　東京都新宿区西早稲田 3-5-10-101
Tel・FAX 03-3205-6923　詳細はお電話でお尋ね下さい。

Ⅳ　生命山カトリック別院
場　所：〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦１３９１－７　TEL.0968-85-3100
研修会
21世紀にむけて第４回　宗教者平和の祈りの集会
祈りの集い：テーマ　－三位一体のイコンの観想－
　　　　１１月１１日（木）・１２月９日（木）
このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。
お申込みは生命山別院へ

Ⅴ　瞑想の家　東　光　庵
指　導：ヨハネ・ウマンス師（神言会）　＊詳細問い合せは電話で
場　所：〒166-0004　東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13　TEL 03-3336-0735

Ⅵ　リーゼンフーバー神父による研究会（1999～2000年）

①キリスト教入門講座　日時：金曜日　18:45 ～20:30
場所：聖イグナチオ教会信徒会館３階アルペホール
対象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方どなたでも。予備知識は必要ありません。

各会のテーマ　：10/29 ミサ祭儀－神への奉仕と生活の糧
11/5　愛の心－キリスト教の本質
11/12 信仰の決断－支えられて生きる
11/19 希望を持つ勇気－未来に向かって歩む
11/26 自己実現と神の意志－生き方の規範
12/3　隣人愛－他人の内にイエスに出会う　　＊黙想会12/4-5
12/10 人間の弱さ－罪とは何か
12/17 恵みと赦し－神の憐れみを受ける
12/18 クリスマスのミサとパーティー（上智大かつらぎ会館）
12/23 ミサ（14時・上智大内クルトゥルハイム２階）

②神学読書会　日　時：毎月第２・第４（第5)水曜日　18：30～20:30
場　所：SJハウス第５会議室　　要申込み、　定期的参加
対　象：キリスト教の基本的知識を持っている20代～30代の方。

③聖書研究会＊日　時：毎月第１・第３水曜日 18:30　～20:00
場　所：S.J.ハウス第５会議室
内　容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。
＊日　時：木曜日　12:40 ～13:25
場　所：上智大学７号館 316号研究室
内　容：新約聖書を１章ずつ読んで話し合います。

④坐禅会　日　時：月曜日 17:20～20:10　　木曜日 18:00～20:30
場　所：クルトゥルハイム１階左の部屋　　３回坐り、間に講話があり。どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

接心
関東　10/29 日（金）20時30分　～11月3(木）16時　秋川神瞑窟　１泊　2400円
2000/2月26日（土)8:30 ～27日（日)16:00　上石神井黙想の家　5600円
連絡先：①シスター朝山 TEL.0727-59-3742

⑤ミ　サ：水曜日 17:10～18:00　場所：上智大学内クルトゥムハイム１階右小聖堂
⑥黙　想：水曜日 18:00～18:30　場所：　　　　　　（同上）
（ミサ、黙想、共に　（８月を除く）

⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00　場　所：S.J.ハウス第５会議室
講話、黙想、ミサがあります。
11月20日、12月11日、2000年1月8日、2月19日、 3月4日

⑧黙想会：　12月4日(土)10時~5日(日)15時,

⑨アガペ会：説明会と集い・右記の日13時30～　.1/22.（20代～40代の信者）
⑩クリスマス会：12月18日（土)16:30～　上智大学かつらぎ会館地下ホール 要申込み
ミサ　　：12月23日（木)14:00～　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

以上、問い合わせ・連絡先　：クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124 、 5111(伝言）、FAX.03-3238-5056

一時停止してみませんか？

日帰り黙想会

将来の進路について、ゆったりとした心で考える一日にしましょう。

対象　：　女子青年

日時　：　11月28日（日）10：00～16：00

申込　：　東京東村山、三位一体の聖体宣教女会

TEL：042－393－3181

FAX：042－393－2407

講　　話

深みある生き方のために

－私を生かしたキリストとの出会い、人との出会い－

会費　：　1,200 円

日時　：　12月4日（土）13：30～15：30

申込　：　東京信濃野町、真生会館学習センター

TEL：03－3351－7123

一泊黙想会

－星降る夜のクリスマス－

富士山のふもとに広がる草原のまん中で、満天の星を見上げながら、
最初のクリスマスを黙想しましょう。
クリスマスの歌もうたいながら・・・。

日時　：　12月10日（金）夕方から　11日（土）17：00まで

申込　：　静岡県裾野市、聖心会黙想の家

TEL，FAX：0559－92－2120

いづれも、指導：星野正道（カルメル会司祭）

Ⅶ　三位一体の聖体宣教女会　「祈りの家」

場　所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

“聖書で祈る”　　申し込み先……　佐々木

指導：雨宮　慧師（東京教区司祭）
対象：女性信徒
日時：10月23日（土）5:30P.M.～10月24日（日）4:00P.M.
　　　2月26日（土）5:30P.M.～2月27日（日）4:00P.M.

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）
対象：女子青年
日時：11月28日（日）10:00A.M. ～5:00P.M.
　　　2月11日（金）10:00A.M. ～5:00P.M.

年の黙想

指導：星野正道師　（カルメル会）
対象：修道女
日時：1999年12月26日(日)5.30P.M －2000年1月4日(火)9.00A.M

研究会　－雅歌を読む－

講師：シスターマグダレナ（三位一体会）
対象：一般　信徒　　お弁当持参
日時：11月８日（月）10:00 A.M.～3:00P.M.　＊　申し込みは各期日５日前まで

聖書に親しむ集い

講　師：シスターマグダレナ
テーマ：2000年に向けて　御父、御子、聖霊の交わり
対　象：一般信徒
日　時：５月～１１月までの最終木曜日　2:00P.M.～3:00P.M.

キリスト教講座　　毎週木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職　　（司祭のために祈る集い）

対　象：信徒、求道者
指　導：本会　会員
期　日：第一グループ　　毎月第２金曜日(2:00P.M. ～3:30P.M.)
期　日：第二グループ　　毎月第１木曜日(2:00P.M. ～3:00P.M.)

Ⅷ　マリアの御心会（明泉会）

場　所：〒１６０-0012 東京都新宿区南元町６－２　　TLE.03-3351-0297

Ⅰ．黙想会　　担当：シスター今村和子
①聖書深読黙想会　　－主日の福音を中心に－
　隔月・日曜日　10:00A.M～5:00P.M..
②黙想と祈りの集い　　テゼの歌をうたいながら
③霊操による祈りの集い
　指導：長町　裕司師（イエズス会）　毎月第３土曜日　6:00～8:00P.M

Ⅱ．①聖書会　…詩編を読む…　　毎月第１月曜日　10:00 ～12:00.A.M
②聖通読講座　　木曜日　6:30～8:30P.M

Ⅸ　聖心会黙想の家

場　所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198　Tel&Fax.0559－92－2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

１２月１０（金）夕食～１１日（土）午後５時まで。星野正道師（カルメル会）

● 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

日時：　毎月　第２土曜日　午後４時～午後５時

場所：　不二聖心のキャンパスにあるどこかの聖堂（四箇所の一つ）

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

内容：　沈黙の祈り　（.11/13.12/11）

*一日黙想会　講師：カルメル会司祭星野正道

場所：聖心会若宮共同体

日時：11／９（以上全て火曜日）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体　TEL.03-3337-3291

聖心会シスター交野（かたの）

Ⅹカトリック内観研究会

代　表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒１１１-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5　カトリック浅草教会内

TEL&FAX 03-3862-8876

*予約相談は、まずはファックス・手紙でご連絡ください。*予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。

予　定　表：

S10/24～30	会場Ａ
T11/22～27	横浜・戸塚
U11/28～12/4	茅ヶ崎
V12/13～12/18	横浜・戸塚
W12/26～001/1	会場Ａ

公開講座　　イエスと日本人　－キリスト教の文化内開花の問題－

日　時：１９９９年．１０／２５．１１／２２．１２／１３　全３回

月曜日　１０：００～１２：００

受講料：7,500 円。一般 8,400円（入会金不）（受講料に消費税5%が加算）

場　所：新宿住友ビル48階　朝日カルチャーセンター（受付は４階）

朝日新聞の文化活動　朝日カルチャーセンター

〒163-0204新宿区西新宿 2-6-1　TEL:03-3344-1941　私書箱22号

TEL:03-3344-1945

ＸＩ．日本カトリック研修センター　〒466-0834名古屋市昭和区広路町隼人30

TEL052-831-5037 Fax052-831-5317

静な時間をつくりましょう。聖書によって祈る；黙想会

日時：1999.11/26～11/28（ 金～日）

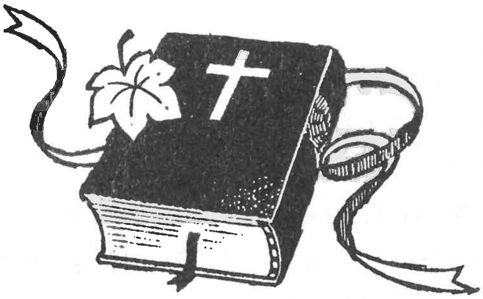
指導：沢田　和夫神父　*定員：25人　*費用：31.000

ＸⅡ．コングレガシオン・ド・ノートルダム

係・山本　三千代
TEL(昼間0424-82-8056)
(夜間0424-822012)

個人指導の黙想会

日　時：11/12（金）20時　～　11/14（日）16時
テーマ　：修道召命を考える　＊20代から～30代未婚の女性信徒
ヘルパー：Ｓｒ．シュラッツ　．Ｓｒ．柴田
参加費：4,000円
＊申込み：11/10（水）までに　Ｓｒ．秋山
場　所：〒182-0034　東京都調布市下石原3-55　　TEL(0424-82-2012)
コングレガシオン・ド・ノートルダム　　FAX(0424-82-2163)



上野毛・宇治・大分

カルメル修道会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、祈りの生活を体験し深めたい方のためのものです。
黙想会・研修会・錬成会などにご利用ください。個人でも団体でもご利用頂けます。
また、皆様が企画したプログラムの黙想会もお受け致します。
詳しいお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒１５８-００９３
東京都世田谷区上野毛２-１４-２５
Tel ０３-５７０６-７３５５
携帯 ０９０-８７２０-９９５０
Fax ０３-３７０４-１７６４
・東急 大井町線「上野毛（かみのげ）駅」下車 徒歩７分

〒６１１-０００２
京都府宇治市木幡御蔵山３９-１２
Tel ０７７４-３２-７０１６
Fax ０７７４-３２-７４５７
・ 京都駅よりJR奈良線「六地蔵（ろくじぞう）駅」下車 徒歩15分
・ 京阪バス 六地蔵駅近くの「町並（まちなみ）」バス停より御蔵山（おくらやま）行きに乗り
「西住宅バス停」 下車 徒歩５分

〒８７０-１１５２
大分市上宗方１８００-３
Tel ０９７-５４１-４０１２
Fax ０９７-５４１-４４０４
・ＪＲ大分駅より バス 富士見が丘 行（他）約１８分
「明礬橋（あけがわらばし）」下車、橋を渡って右折

カルメル修道会

お　願　い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

１．締　切　り　　毎月１０日

２．①各グループの　目的　或いは　主旨

　②月間　或いは　年間予定：研修、黙想など具体的計画

　③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて

　④その他　　自由ニュースをお送りください。

３．ワープロ。　なお、手書きの場合は早目にお送りください。

４．原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦しください。

５．寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は　中尾豊子宛　に郵送御希望の月数分の２２０円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾　豊子　　〒224-0041　神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5
☎045-941-3566

あとがき

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってくれています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター
星　野　　正　道